

剣道学科審査の問題と解答

一般財団法人 茨城県剣道連盟

平成25年4月

目 次

三段問題

1. 「剣道の理念」について書きなさい -----	3
2. 剣道における「三とおりの礼」について説明しなさい -----	3
3. 切り返しを行う上で「気をつけること」について5項目以上 書きなさい -----	4
4. 剣道における「鍔ぜり合い」の注意点を3項目以上書きなさい -----	5
5. 剣道における「掛け声」の効用（ききめ）について書きなさい -----	6
6. 「有効打突の条件」をあげ、簡単に説明しなさい -----	7
7. 剣道における「間合」について説明しなさい -----	8
8. 剣道における「三殺法」について説明しなさい -----	9
9. 剣道における「残心」について説明しなさい -----	10
10. 日本剣道形で使われている「五つの構え」を書き説明しなさい -----	11

四・五段

1. 「剣道の理念および剣道修練の心構え」について書きなさい -----	12
2. 「剣道指導の心構え」について書きなさい -----	13
3. 剣道における「攻め・崩し」について説明しなさい -----	14
4. 剣道における「応じていく技」とはどのような技か説明し、 「主な技」を書きなさい -----	15
5. 剣道における「打突の好機」について説明しなさい -----	16
6. 剣道における「四戒」について説明しなさい -----	17
7. 「日本剣道形を修練するときの留意点」を5つ以上書きなさい -----	18
8. 剣道試合・審判規則での「禁止行為」を5つ以上書きなさい -----	19
9. 剣道における「有効打突の条件」をあげそれぞれについて説明しなさい -	20
10. 剣道試合における「審判員の留意点」をあげなさい -----	21

(参考文献)

(全日本剣道連盟『剣道学科審査の問題例と解答例』

および一部『剣道指導要領』より抜粋)

【三段】

1 「剣道の理念」について書きなさい。

2 剣道における「三とおりの礼」について説明しなさい。

剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である。

剣道における礼法には、立った姿勢でおじぎをする立礼と、正座の姿勢からおじぎをする座礼とがある。立礼には二とおりの作法があるが、いずれも真心をこめ、節度をもって折り目正しく行うようにする。

(1) 上体を約 30 度前傾して行う礼は、神前や上座、上席に対する礼法である。

(2) 上体を約 15 度前傾し、相手に注目して行う目礼は、試合や稽古の際の互いの礼法である。

座礼は、正座の姿勢から上体を前方に傾けつつ、同時に両手を「ハの字」の形にして床につけ、その中心に鼻先を向け、静かに頭をさげる。一呼吸程度おいてから両手を同時に床から離し、元の姿勢に戻る。

【三段】

3 剣道における「切り返して気をつけること」について5項目以上書きなさい。

- (1) 立合いの間合では、姿勢、構え、竹刀の握り方などを正しくする。
- (2) 初心の段階では、動作を大きく、正確に行う。
- (3) 肩の余分な力を抜いて、柔軟に左右均等に打つ。
- (4) 連続左右面打ちの角度を45度ぐらいにする。
- (5) 正しい足さばきで行い、特に後退の際の引き足が歩み足にならない。
- (6) 振りかぶったときに、左こぶしを必ず頭上まであげる。打ちおろしたときには、左こぶしがさがり過ぎたりあがり過ぎない。
- (7) 左こぶしは常に正中線上にある。
- (8) 息のつなぎ方は、正面を打ち、相手に接近したところで息を吸い、左右面を打ち終って間合をとり、正面を打ったところで息をつく。
- (9) 相手の竹刀のみを打ったり、空間を打ったりすることなく、伸び伸びと確実に左右面を打つ。
- (10) 頭や腰、膝などで調子をとって体の上下動を大きくしない。
- (11) 正面打ちは、一足一刀の間合から正確に打つ。
- (12) 習熟するにつれて、旺盛な気力をもって息の続く限り一息で行い、体勢崩さずに連続左右面を打つようにする。

【三段】

4 剣道における「鍔せり合いの注意点」を3項目以上書きなさい。

- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
- (2) 首を真っ直ぐに保って、相手の丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
- (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
- (4) 相手の肩に竹刀をかけたたり、刃部を身体にかけたりしない。
- (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
- (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

【三段】

5 剣道における「掛け声」の効用（ききめ）について書きなさい。

掛け声には、相手と攻め合う時に発生するものと、打突の時に発生するものがあるが次のような効用（ききめ）がある。

- (1) 自分の気力を充実させる。
- (2) 相手を威圧（おどろかしおそれさせる）する。
- (3) 自分の力を集中して、より以上の勢いと力を発揮させる。
- (4) 気剣体の一致をはかり、打突を正確にさせる。

【三段】

6 剣道における「有効打突の条件」について説明しなさい。

有効打突の条件は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し残心あるものとする。

これを簡単に説明すれば、正しい姿勢で、元気よく、気合、竹刀、身体を一致させて、規定された面部、小手部、胴部および突く部を竹刀の物打ち部、または剣先で正しく打突し、打突後の相手に対する身構え、気構えをしっかりとることである。

【三段】

7 剣道における「間合」
について説明しなさい。

間合とは自分と相手との距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合

剣道の基本となる間合で、一步踏み込めば相手を打突できる距離であり、一步退がれば相手の打突をかわすことのできる距離である。

(2) 遠い間合（遠間）

相手との距離が一足一刀の間合よりも遠い間合で、相手が打ち込んできても届かないが、同時に自分の打突も届かない距離である。

(3) 近い間合（近間）

相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打突が容易に届くかわりに、相手の打突も届く距離である。

【三段】

8 剣道における「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の竹刀（剣）、技、気の三つを封ずる。

（1）竹刀（剣）を殺す

相手の剣を押え、払うなどして剣の働きを制する。

（2）技を殺す

先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。

（3）気を殺す

気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

【三段】

9 剣道における「残心」について説明しなさい。

残心とは、打突した後でも油断することなく、相手の反撃に対応できる身構えと気構えである。

- (1) 打突後に間合をとって、相手の反撃に備える。
- (2) 打突後に適正な間合がとれない場合は、自分の剣先を相手に中心につけるようにして相手の反撃に備える。
- (3) 残心がないものは有効打突にならない。

【三段】

10 日本剣道形で使われている「太刀五つの構え」を書き説明しなさい。

(1) 中段の構え

すべての構えの基礎となる構えで攻防に最も適した構えである。

(2) 上段の構え

太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。

(3) 下段の構え

剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。

(4) 八相の構え

太刀を大きく右肩にとり、相手の動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。

(5) 脇構え

半身になりながら太刀を右脇にとり、相手の動作を監視しながら、相手に出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

【四・五段】

1 「剣道の理念および
剣道修練の心構え」につ
いて書きなさい。

(1) 剣道の理念

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道
である。

(2) 剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び

心身を錬磨して旺盛なる気力を養い

剣道の特性を通じて礼節をとうとび

信義を重んじ誠を尽して

常に自己の修養に努め

以って国家社会を愛して

広く人類の平和繁栄に

寄与せんとするものである

【四・五段】

2 「剣道指導の心構え」について書きなさい。

(1) 竹刀の本意

剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。

剣道は、竹刀による「心気力一致」を目指し、自己を創造していく道である。「竹刀という剣」は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。この修練を通じて竹刀と心身の一体化を図ることを指導の要点とする。

(2) 礼法

相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。

剣道は、勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形（かたち）の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。

(3) 生涯剣道

共に剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

剣道は、世代を超えて学び合う道である。「技」を通じて「道」を求め、社会の活力を高めながら、豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していくことを指導の目標とする。

【四・五段】

3 剣道における「攻め・崩し」について説明 しなさい。

相手を攻めて何らかの変化や反応があり、構えの崩れや心に動揺が生じたところを打突することが大切である。相手を攻め崩すには、次の三つの方法がある。

(1) 剣先によって攻める

お互いが中段の構えで剣先を中心につけて攻め合っている場合は、お互いに打突の機会が得られない。そこで、相手の竹刀に対して「触れる」「押える」「払う」「はじく」「張る」「捲く」などの剣先の働きにより相手の剣先を中心から外して打突の機会をつくる。

(2) 技によって攻める

相手が打突しようとする先に、自分から積極的に技をしかけることによって機先を制し、相手の構えを崩したり心に動揺を与えることで、自分に有利な打突の機会をつくる。

(3) 気によって攻める

相手が打突しようとする兆しが出る前に、“打つぞ、突くぞ、抜くぞ、”という、強い気迫で相手の打ち気を封じたり、削ぐなどして勝機をつかむ。

【四・五段】

4 剣道における「応じていく技」とはどのような技か説明し、「主な技」を書きなさい。

相手の打突に対して、竹刀操作と体さばきにより相手の打突を無効にし、体勢を崩すことなく、すかさず打ち込む技である。主な技は次のとおりである。

- 抜き技
- すり上げ技
- 返し技
- 打ち落とし技

【四・五段】

5 剣道における「打突の好機」について5つ以上あげて説明しなさい。

(1) 相手の動作の起こり頭（出ばな）

動きを起こそうとする瞬間をいう。

(2) 受け止めたところ（受け止めたところ以外に隙が生じる）

受けに専念しており、更なる攻撃の機会である。

(3) 技の尽きたところ（動作や技がおわったところ）

動作や技が終わって次の動作に移ろうとした瞬間をいう。

(4) 居ついたところ（身心の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき）

攻防の動作中に瞬間的に対応動作ができなくなった状態。

(5) 引きはな（退がるどころ）

体勢を整えるため下がろうとするところ。

(6) 息を深く吸うところ（息を吸うときは、相手の動作が止まる）

呼吸を相手に悟られると隙となる。

(7) 体の崩れたところ

姿勢・動作が乱れ、体勢が整わないところ。

【四・五段】

6 剣道における「四戒」
について説明しなさい。

「驚（きょう）・懼（く）・疑（ぎ）・惑（わく）」
の精神状態が生じないように、心を制御することが
重要であるという戒めである。

- (1) 驚 予期しない事態に驚いて、心身の活動が
乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、
為す術のない状態になる。
- (2) 懼（恐）恐怖のことで、相手を恐れて、精
神の活動が停滞し、四肢が震えて自由
な動きを失う。
- (3) 疑 相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、
平静な判断を下せず、決断がつかない状
態である。
- (4) 惑 心の迷いである。心が迷うときは精神昏
迷、敏速な判断や軽快な動作をなすこと
ができない。

【四・五段】

7 「日本剣道形を修練するときの留意点」を5つ以上書きなさい。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。
- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）に関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがらないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するときは後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

【四・五段】

8 剣道試合・審判規則
での「禁止行為」を5つ
以上書きなさい。

- (1) 薬物を使用する。
- (2) 審判員および相手に対し非礼な言動をする。
- (3) 定められた以外の用具（不正用具）を使用する。
- (4) 相手に足を掛けまたは払う。
- (5) 相手を不当に場外に出す。
- (6) 試合中に場外に出る。
- (7) 自己の竹刀を落とす。
- (8) 不当な中止要請をする。
- (9) 相手に手を掛けまたは抱きこむ。
- (10) 相手の竹刀を握るまたは自分の竹刀の刃部を握る。
- (11) 相手の竹刀を抱える。
- (12) 相手の肩に故意に竹刀をかける。
- (13) 倒れたとき、相手の攻撃に対応することなく、うつ伏せなどになる。
- (14) 故意に時間の空費をする。
- (15) 不当な鏝ぜり合いおよび打突をする。

【四・五段】

9 剣道における「有効打突の条件」をあげそれぞれについて説明しなさい。

有効打突の条件は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって竹刀の打突部で打突部位を羽筋正しく打突し残心あるものとする。

(1) 充実した氣勢

気力が充実していて、相手を圧倒する氣勢がある。

(2) 適正な姿勢

竹刀の打突方向と打突したときの体勢が調和し、かつ、動的な姿勢が安定している。

(3) 打突部

物打で打突している。

(4) 打突部位を刃筋正しく

竹刀の打突方向と刃部の方向が一致している。

(5) 残心

打突後の身構えと気構え。

【四・五段】

10 剣道試合における「審判員の留意点」をあげなさい。

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。